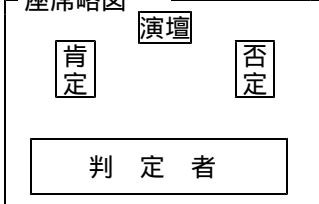



### 4 ディベートを利用して多面的・多角的に追究させ、望ましい解決のあり方を考察させる授業の展開例

教科(科目)	公民(政治・経済)	単元名	少子高齢化と社会保障
本時主題	政府主導による福祉が望ましいか、自助努力による福祉が望ましいか (3時間目/3時間)		
本時の目標	ディベーターだけでなく、判定役の生徒も含めて全員が主題について考え、ディベートに参加する。 【関心・意欲・態度】 政府の主導による福祉の考え方と、自助努力による福祉の考え方について多面的・多角的に考察し、自分の意見を発表する。 【技能・表現】 少子高齢化社会が進むなか、日本の社会保障制度の大きな柱の一つである年金制度について理解を深め、将来に向けてどうあるべきか考える。 【思考・判断】		
指導の内容・ねらい	学 習 活 動		指導上の留意点/ 観点別評価/ 評価方法
・本時の目標を把握する。(2分) ・ディベートの主題や進め方をつかむ。(3分) 5分(経過時間) ・ディベーターだけでなく、判定役の生徒も含めて全員が主題について考え、ディベートに参加する。 ・政府の主導による福祉の考え方と、自助努力による福祉の考え方について多面的・多角的に考察する。 40分 ・まとめ ・少子高齢化社会が進むなか、日本の社会保障制度の大きな柱の一つである年金制度について理解を深め、将来に向けてどうあるべきか考える。 50分	本時の目標を確認する。 ディベートの主題、進め方についての説明を聞く。 座席略図  演壇  判定者 ディベートを行う。 論題：日本の年金制度は公的保障部分を縮小して自助努力を中心に実施すべきである 立論 肯定側 日本の年金制度は自助努力を中心に実施すべき(5分) プラン：個人責任の運用による年金である確定拠出年金(日本版401k)を公的年金にも活用する。☞資料2 メリット1：財政赤字の軽減と若い世代の不安解消。 根拠：今の制度では少子高齢化により年金財政は悪化し、保険料の引き上げと給付額の削減は避けられない。 メリット2：転職のときも継続でき、労働市場の流動化にも対応できる。 否定側 日本の年金制度は公的保障を中心に実施すべき(5分) プラン：確定拠出年金(日本版401k)は個人リスクが大きく、退職後の給付額が確定しないので老後の生活設計を立てにくい。 根拠：社会権を保障するものとして公的保障は不可欠。 質疑：反論ではなく、相手側立論の確認を行う 否定側質疑 3分 肯定側質疑 3分 判定者からの質疑 3分 反駁：相手側主張の根拠(理由)を攻撃する 否定側第一反駁 3分 肯定側第一反駁 3分 否定側第二反駁 3分 肯定側第二反駁 3分 肯定側と否定側ともに1分間の作戦タイムを2回とることができる。 「ディベート判定表」をまとめる。 年金改革の最新の動向を知る。☞資料3 ・今年の12月に厚生労働省から「改革の方向と論点」が公表され、2004年春に法案が国会に提出される。 ・2004年の年金改革では「スウェーデン方式」(保険料を年収の18.5%で固定し(我が国は13.58%)、年金給付額は財政に合わせ自動調整(削減)する)の導入が検討されている。 社会保障が憲法25条に明記された社会権であること、年金問題が税制改革(財源確保のための消費税率アップ)や「大きな政府と小さな政府」の選択にも関することを確認する。 ディベートをふまえ最後に、自分の意見をまとめる。		主題の争点、ディベートのルール「フロートシート」の記入の仕方を確認する。☞資料1 ディベーター以外の生徒を全員判定者とする事で、傍聴する生徒も主題に対して積極的にかかわれるようにする。 判定者にも「フロートシート」に討論の内容を記入しながら傍聴させる。 ディベーターは効果的なプレゼンテーションができたか。【技】 判定者は「フロートシート」にメモを取りながら、ディベートに参加できたか。【関】 政府の主導による福祉の考え方と、自助努力による福祉の考え方について多面的・多角的に考察できたか。【思】 観察。 授業終了後に「フロートシート」と「ディベート判定表」を提出させる。☞資料4 判定者にも質疑に参加する場を設定し、本時の主題について考えを深められるようにする。 これまでの学習(社会権や財政の仕組みなど)や前時の「年金教室」の成果をふまえて、議論が展開できているを確認。 今後の年金制度の動向に関心をもたせ学習の成果の深化をはかる。年金に興味・関心をもつようになったか。【関】 少子高齢化社会が進むなか、日本の社会保障制度の大きな柱の一つである年金制度について理解を深め、将来に向けてどうあるべきか考えられたか。【思】 授業終了後に「ディベート判定表」と「フロートシート」を提出させ、評価の対象とする。

<資料編>

資料1 ディベートフロートシート(実際はA4版)

ディベートフロートシート

開催 年 月 日

論題: 日本の年金制度は公的保障部分を縮小して自助努力を中心に実施すべきである

肯定側立論	否定側質疑	否定側立論	肯定側質疑	否定側第1反駁	肯定側第1反駁	否定側第2反駁	肯定側第2反駁

<記入例> (VTR「ディベートしよう! ~教室ディベート・ビデオガイド~」より)

肯定側立論	否定側質疑	否定側立論	肯定側質疑	否定側第1反駁	肯定側第1反駁	否定側第2反駁	肯定側第2反駁
㊦ 原発を30年で廃止 ㊦1 原発事故から国民を守る 事故頻発 技術未完成 チェルノブイリ ㊦2 廃止決めれば新工 業開発、省エネ進む				日本の原発は安全 30年死亡事故なし  特殊な例外	日本でも事故頻 発  核反応同じ 故に危険は同じ	安全システム 適切に働く  非現実的 自然に左右され 安定供給無理  節約ではとても 対応無理 化石燃料多様 一環境悪化	安全技術未確立  計画的段階的廃 止で新エネ開発 予算出せる  開発進む 国民が省エネに 本気になる
(注) P=プラン M=メリット D=デメリット		㊦1 生活レベルの低下 30%以上供給 新エネ見通しない 名古屋ドーム の2700倍!  ㊦2 化石燃料に戻れば CO <sub>2</sub> 環境悪化			クリーンエネ(新工 業)開発  段階的な廃止だ から新エネ開発 可能  新エネの余地大 きい		

資料2 確定拠出年金(日本版401K)

昨年の第151回国会で「確定拠出年金法」が成立した。これはアメリカの年金制度(401K)をモデルに、公的年金の部分ではなく、その上積み(私的年金)の部分で、自助努力(自己責任)による年金運用を日本でも導入できるようにしたものである。現行の確定給付型の企業年金は、公的年金を補完するものとして機能してきたが、この年金では、報酬や勤続年数によって将来の給付額があらかじめ決められている。しかし、終身雇用の習慣が崩れ、また、若年層を中心とした転職意識の変化も見られるなかで、企業の賃金体系も変化しており、この方法では、老後の所得保障の実現が困難だと考えられるようになってきた。そこで新たな選択肢として、自己責任を原則とする確定拠出型年金制度が私的年金の部分で導入されるようになったのである。

確定拠出型年金は毎年の拠出額を確定したものとして、その運用は個々人の自己責任において実施し、給付額はその結果によって決まる。この新しい年金が、私的年金の部分で定着・拡大すれば、将来公的年金を補完するものとなる可能性がある。そこで、授業ではこの自助努力(自己責任)を基本とする新しいタイプの年金に注目し、「政府主導による福祉が望ましいか、自助努力による福祉が望ましいか」という主題のもと、「日本の年金制度は公的保障部分を縮小して自助努力を中心に実施すべきである」という論題を設定し、年金問題の解決策をディベートの手法を用いて考察することにした。確定拠出年金に関する資料は以下のものを主に利用した。

- ・「一からわかる企業年金」(朝日新聞ホームページ)<http://www.asahi.com/edu/ichi/ichi0305a.html#Q1>
- ・「日本版401K」(野村證券ホームページ)<http://www.nomura.co.jp/service/401k/index.html>
- ・「man@bow ~ 経済について楽しく学べる ~」(日本経済新聞ホームページ)<http://manabow.com/zoo/chapter6/1.html>
- ・「日経特集・401Kが変えるあなたの年金」[http://markets.nikkei.co.jp/feature/nenkin401k/atoz\\_index.cfm](http://markets.nikkei.co.jp/feature/nenkin401k/atoz_index.cfm)

資料3 年金改革の動向

我が国の年金には、国民年金、厚生年金保険、共済年金などの公的年金があるが、少子高齢化のなかで、基本的に保険料を値上げして年金をカットするという見直しを繰り返し、年金改革の議論も年金の負担と給付のバランスをどのようにとるのかに集中してきた。保険料に関しては、2004年の年金制度改革にあわせて、全国民共通の基礎年金の国庫負担割合を現行の3分の1から2分の1に引き上げることになっているが、この財源を確保するため、消費税率の引き上げが議論され、実現する可能性が高い。最新の年金改革の動向に関する資料は以下のものを利用した。

- ・『みんなで支える公的年金』《高等学校向き》社会保険庁
- ・「一からわかる年金改革」(朝日新聞2002年10月7日付朝刊)
- ・「年金、年収の52%に」(朝日新聞2002年11月30日付朝刊)
- ・「年金改革・これで若者が安心するか」(朝日新聞2002年12月6日付社説)
- ・「保険料負担と年金水準Q&A」(朝日新聞2002年5月8日付朝刊)
- ・「年金改革 “先輩” に学ぶ」(朝日新聞2002年11月27日付朝刊)
- ・「年金改革の骨格に関する方向性と論点」(朝日新聞2002年12月6日付朝刊)

資料2 デイバート判定表(実際はA4版)

## デイバート判定表 組 番 氏名

肯定側						評価の観点	否定側				
1	2	3	4	5	1 準備	十分な準備ができていたか 十分な資料分析ができていたか	1	2	3	4	5
1	2	3	4	5			1	2	3	4	5
1	2	3	4	5	2 立論	筋道が通っているか(論理性) 言葉がはっきりしているか 姿勢・態度はよかったか 適切な資料・具体例は示せたか	1	2	3	4	5
1	2	3	4	5			1	2	3	4	5
1	2	3	4	5			1	2	3	4	5
1	2	3	4	5			1	2	3	4	5
1	2	3	4	5	3 質疑	質問に筋道は通っていたか 応答に筋道は通っていたか 相手を説得できる内容だったか 活発な質疑応答であったか	1	2	3	4	5
1	2	3	4	5			1	2	3	4	5
1	2	3	4	5			1	2	3	4	5
1	2	3	4	5			1	2	3	4	5
1	2	3	4	5	4 反駁	筋道が通っていたか 言葉がはっきりしていたか 効果的な話し方が時間内にできたか	1	2	3	4	5
1	2	3	4	5			1	2	3	4	5
1	2	3	4	5			1	2	3	4	5
1	2	3	4	5	5 総合印象	冷静な態度であったか(聞き方も含む) 一生懸命であったか 全員が協力して対応していたか	1	2	3	4	5
1	2	3	4	5			1	2	3	4	5
1	2	3	4	5			1	2	3	4	5
計							計				
							/ 80				

肯定側へのコメント

否定側へのコメント

私の結論

<理由>

<単元の計画>

- 1 時間目：社会保障制度の発達と日本の社会保障制度
- 2 時間目：日本の年金制度の仕組みと意義(「年金教室」、講師：岐阜社会保険事務局年金課)
- 3 時間目：高齢社会の到来と社会保障制度の課題(デイバート)…本時

<指導上のポイントと授業の考察>

1. 指導上のポイント(授業の工夫・配慮点など)

(1) 教材の選定

授業では年金問題を通して将来の社会保障の在り方を考察させることにした。教材として年金問題を取り上げたのは以下の理由による。まず、年金制度は我が国の社会保障の柱の一つである。賦課方式(一定期間に支給する年金をその期間の保険料でまかなう方式)は世帯間の合意を伴うため、生徒の将来にもかかわる国民的課題である。年金問題の解決には制度面の整備(政治的解決)だけでなく、財政の裏づけ(経済的解決)が必要である。解決の方法をめぐってはさまざまな意見がある。これら ~ に見られる年金問題がかかえる性格や課題は、生徒が、これまで学習してきた「政治・経済」の知識をもとにして、政治と経済とを関連させながら「現実社会の諸課題を多面的・多角的に追究し、望ましい解決のあり方を考察させる」教材として適切であるだけでなく、生徒にとっても、自分が直面する将来の課題でもあり、新指導要領の主旨に適合する教材と考えたからである。

(2) デイバートの活用

課題追究の手法としてデイバートを採用したのは、それが生徒の主体的な活動を通して得た知識を自らの方法で表現し理解していくことを可能とする学習方法であり、課題と自分とのかかわりを認識し、追究する態度を育てる目標を達成するのに有効であると考えたからである。なお、デイバートの事前指導に利用した資料は以下の通りである。

・VTR「デイバートしよう! ~ 教室デイバート・ビデオガイド ~」財団法人中部科学技術センター

・全国デイバート連盟ホームページ(<http://member.nifty.ne.jp/debate/>)

(3) 外部講師の活用

デイバート実施の前に、社会保険事務局年金課の講師による「年金教室」を開催し、日本の年金制度の特徴や意義について学習した。年金制度は、生徒にとってはとっつきにくい教材である。そこで外部のしかも専門家による授業を設定することで、生徒の関心や意欲を引き出し、次時に実施するデイバートを利用した課題追究学習の深化を期待した。

(4) 情報機器の活用

年金問題に関する資料の収集には新聞記事やインターネットを活用した。クラスには情報リテラシーの高い生徒が数人いる。今回は、パソコン部の生徒をディベーターに加え、インターネットによる資料の収集やパソコンを使ったプレゼンテーションが可能のように仕組んだ。パソコンの利用は模造紙に書く手間ひまを削減し、ネット上の資料を効率的に活用できるからである。

(5) ホームルームノートの活用

フォーマットは生徒がロング・ホームルームで使用しているホームルームノート「青春を探究しよう(平成13年

度)」(岐阜県高等学校生徒指導研究会)を参考にした。

#### (6)全員の「参加」の保障

ディベートでは、議論をする生徒は主体的に授業に「参加」でき、より深く理解し追究できる場が保障されるが、傍聴する生徒は役割上、受身的になりがちである。そこで授業では「ディベート・フロート・シート」を用意し、質疑に参加する場も設定した。また、各自の意見を「ディベート判定表」に記入させるようにした。このことによって傍聴する立場となる生徒にも議論に参加する機会を保障し、ディベートに主体的・積極的に関われる状況を作り、「参加」を保障しようとした。

#### (7)ディベーターの選定

事前に何人かの生徒に声をかけ、有志を募るように働きかけた。また、資料収集やプレゼンテーションにあたって、インターネットをはじめとした情報機器を活用できるように、情報機器の活用に詳しい生徒を選定した。

## 2. 授業の実際

ディベートでの立論の様子

傍聴席の様子

ディベートでの反駁の様子

ディベートでは主題の追究過程で、議論の当事者であるディベーターとなる生徒と、判定者または傍聴者となる生徒との間に学習量の違いから課題の把握や理解に格差が生じやすい。このため、傍聴の生徒が議論の内容を十分に理解できるかどうかという不安があった。また、主題が高校生にとって身近なものでないため、議論が生徒自身のものになっていくが、それゆえディベートでは調査内容の棒読みにならないかも不安であった。それでもディベーターの生徒は、自分の言葉で議論を展開できた。とくに、「質疑」の場面は白熱した。また傍聴席の生徒も熱心に「フロートシート」にメモを取り、ディベートに「参加」していた。



## 3. 成果と課題

### (1)成果

授業終了後に提出した「ディベート判定表」から、「自分のこと」としては捉えにくい問題であった「年金」についてその役割や仕組みについて具体的に理解できたことが分かった。またディベートでは、多様な意見や価値観が具体的な資料や事例の提示を通して議論された。このように一つの問題をさまざまな角度から考察することができるディベートは、生徒のもつ興味や関心を引き出し問題意識を高める効果があった。2単位の授業の中で、こうした学習の導入は、時間の確保や成果まで考えると勇気がいる。しかし現実には、生徒に活動の場を保障することによって得られた効果は、導入のためらいを払拭するものがあった。たとえば、授業後、これまでどうしても距離感を抱いていた「年金」に興味・関心や自己とのかかわりを実感できた生徒が多かった。授業者にとっても、学習内容を、生徒が自己とのかかわりの中で身に付けていく学習の意義と重要性をあらためて実感する体験となった。なお、「年金」特に「確定拠出年金」の内容を生徒がどれだけ理解できるか不安があったが、生徒はディベートに集中して参加し、理解できていた。その理由としてはまず、事前に専門の外部講師によって「公的年金」の仕組みや重要性を学習したことをあげることができる。また、その後ディベートを仕組んだことによって「年金」の学習への取組を一層真剣なものとする相乗効果があった。このことは、生徒が出した解決策の内容にうかがえる。多くの生徒は年金財政の悪化を理解し、自助努力による年金の必要性を認めながらも、憲法25条が保障する「健康で文化的な生活」に着眼して社会保障のもつ公的保障の側面を重視するとともに、「世代間の支えあい」の精神に共感を抱く生徒もいて、多面的・多角的に考察できていた。また、年金問題が政治の駆け引きに利用されるのではなく、多様な意見を交わす中で世代間の合意を形成していくことの必要性を指摘する生徒もいた。以下は「年金教室」およびディベートに「参加」した生徒の感想の一部である。

- ・今まで年金とか考えず、面倒だと思っていたけど、ディベートをやってそんなこと言ってる場合じゃないと思った。この問題が私にも国民全体にも関係しているんだと改めて実感させられた。
- ・公的年金にはメリットもデメリットもそれぞれあってどちらの意見も納得できるものだったが、デメリットが少しでもよくなる制度が作れるといい。
- ・ディベートには集中力が必要なこと、事前にいろいろと調べていないと質問に答えられないことがわかった。
- ・討論をしっかりと聞くことができた。全部を聞き取り、理解できたわけではないけれど、自分の意見もち、考えられた。
- ・反駁で相手側が何を言ってくるのか非常に緊張したが、白熱していてもおもしろかった。
- ・今まで公的年金制度しか方法はないと思っていたが、401Kのような制度があってもいいと思った。真剣に考えてたい。
- ・どんな問題にも賛否両論があるから難しいと思った。
- ・苦労したけれど楽しかった。今回のような授業をもっと増やしてほしい。
- ・自分だけでなくすべての人にとって重要な制度だと思ったし、一番の課題は財源をどうしていくかだと思う。
- ・年金のことはまだ先の老後のことだと思ってあまり深く考えたことはなかったけれど、今日討論をして、もう少し身近な問題として考えなければいけないと思いました。

### (2)課題

#### 課題追究学習について

ディベートを採用したねらいの一つに、生徒が自ら調べ、資料等を収集する学習の場の保障がある。このためには十分な時間の保障が必要であるが、それが十分にできなかった。このため、論点の柱となる部分の資料に関しては事前に教師が検索・収集し、生徒に参考資料として提示したり、参考となるホームページ等を教えることをした。時間の確保をどうするかは難しい問題であるが、学習の成果を生徒自身のものにしていくには必要な過程である。それゆえ、一層の教材の精選とともに、時間を割くだけの価値の有る主題や教材をいかに見つけたていくかが重要であり、課題である。また、さらには生徒自身による課題の設定も今後の課題として残った。

#### 評価について

絶対評価の導入を考慮するとき、評価基準の設定の問題は不可避である。今回の授業では、「ディベート判定表」を評価の対象にしたが、指導案に示した評価の観点を具体的にどのように評価として位置づけるかは明示できなかった。

## 5. 参考資料・参考URLなど

・ 社会保険庁 <http://www.sia.go.jp/>

・ 「政治・経済」実教出版(平成15年度新教育課程用教科書)

## 課題追究学習の成果とポイント

限られた時間の中で課題追究学習を導入することは、「時間ばかり費やして、学力の向上につながらないのではないか」などの不安があり、その成果まで考慮するとためらいがちになる。しかし、授業者が実践したクラスでは成績の向上が見られた。その理由の一つとしては、生徒の意欲や興味・関心の高まりが考えられる。実際、授業についての生徒の評判は良く、授業だけでなくその後の授業に望む姿勢も生き生きしてきた。これまでとは違う学習形態の導入に教師が不安をもつのは事実だが、思い切ってやってみるものの大切さを実感した。生徒も多様な授業形態を取り入れたメリハリのある授業や、主体的に活動できる授業を望んでいることがわかった。以下は実践の成果や課題をふまえ、課題追究学習展開上のポイントをまとめたものである。

### 1．課題の設定

取り上げる課題が生徒の興味・関心をひきつけるものや、生徒にとって切実性のあるものであること。そうでない場合は単元計画の中で生徒の関心を高め、自己とのかかわりや課題の重要性を認識させていく工夫が必要である。

### 2．単元の構成

課題内容についての理解を深めるための単元計画は、どのような追究方法を採用するかよりも重要である。生徒自身が課題の重要性を認識できるかどうかにか課題追究学習の成否のカギがある。

### 3．追究方法

課題追究の方法を身につけるための授業(準備)は不可欠である。ディベートであれば事前にVTR等を利用して基本的なルールや内容を確認したり、立論や反駁では何をするのかをつかませる必要がある。「総合学習」や教科「情報」と連携させる工夫も考えられる。

### 4．課題追究学習の時間の確保

限られた時間の中で、どのように課題追究学習の時間を確保するかは、その導入に消極的になる障害の一つであるが、時間の確保には、評価と一体化した綿密な年間計画を立てることが重要である。全体の授業時間の配分ができて初めて指導内容の精選も可能となる。また、プレゼンテーションソフトの授業での利用など、視聴覚機器や情報機器等の活用によって生徒の効率的な知識・理解の獲得を工夫することも必要である。

### 5．日常の授業活動

課題追究学習のような生徒が主体的に活動する授業では、日頃から生徒が意見を言ったり活動しやすい雰囲気を作り出しておくことや、授業を通してじた生徒との人間関係を築いておくことが重要である。

### 6．教師の姿勢

教師が生き生きしているとき、生徒も生き生きし、授業も生き生きしてくる。教師の「生き生き」は新しい教材や驚きのある教材との出会いや発見による授業改善への工夫の中で生まれてくる。そのために、日常から、新聞の切り抜きやテレビ番組や役立つホームページ等のチェックをしておくなど教材化へのアンテナを張っておきたい。